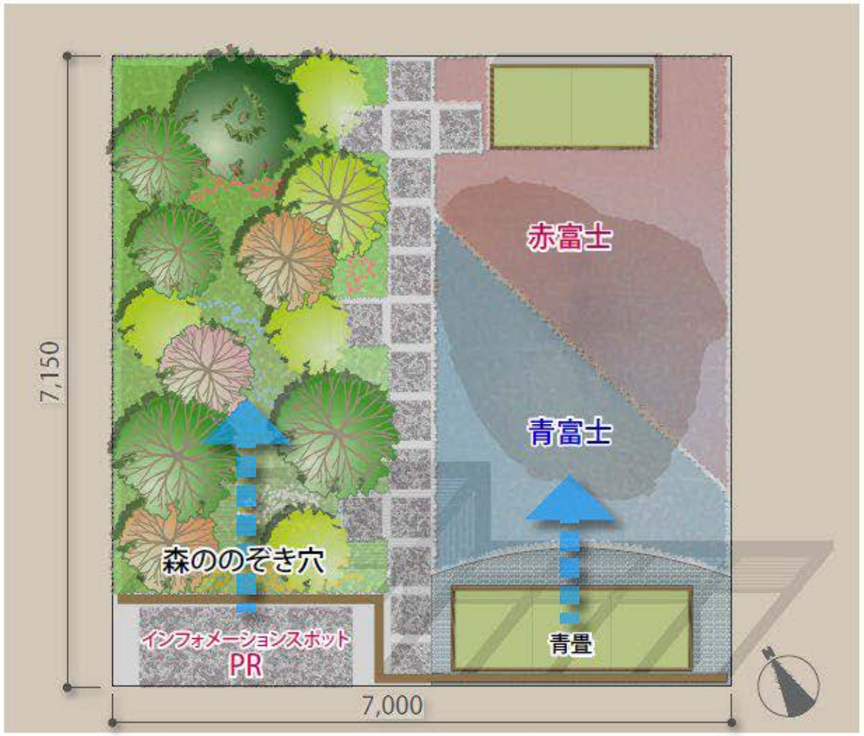
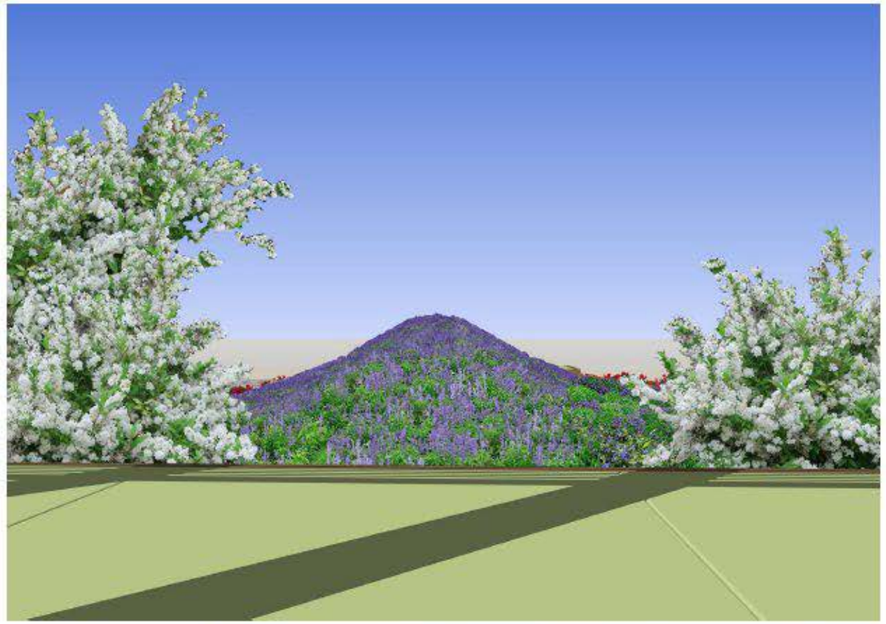
展示計画書（2026年7月末時点暫定案）

東京都市大学学生のアイデアを受け内山緑地建設社内でワーキング
暫定案として一旦まとめ事務局に提出













展示の名称	
Sustainable Experimental Garden for the Next Generation of Japanese Landscape Architects 次代を担う日本のランドスケープアーキテクトのためのサステナブルな実験庭園	
出展区画の面積	出展キーワード
出展区画の面積：　50㎡	暮らし

花・緑出展作品を通じて来場者へ伝えたいこと

GREEN×EXPO 2027の配慮事項である「サステナビリティ」は、当社社長方針である「資本は人なり」に通ずるものと解釈し、『資本である人こそがサステナビリティであるべき』と捉え、人的サステナビリティを築く取り組みとして考えました。花・緑出展は若手社員10数名を主体とするワークショップとベテラン社員が、それぞれの社員の経験や知識、アイデアを交換することで、世代や部門を超えた強い結びつき、社員【人】のサステナビリティ構築に取り組みました。
また、2つの大学と社内ワーキンググループとの連携、ならびに協同により、園芸博覧会を契機とする造園を学ぶ学生たちとの結びつき、造園に関わる【人】のサステナビリティ構築に取り組みました。
その取り組みを表現することで、これからの世代に継承していきたいと考えます。

本博覧会のテーマ・サブテーマとの関連性

テーマである「幸せを創る明日の風景」、サブテーマである「連携による解決」を、造園に関わる【人】のサステナビリティ構築により、これからの世代に継承していきたい庭を表現しようと思います。

展示施設や展示物の概要

国際園芸博覧会が母国日本で開催される意義、そして、その博覧会に出展する意義を皆で考えました。ランドスケープデザインやガーデンデザインに関わる道を歩んでいる私たちが、未来へつないでいくべき「何か」を皆で得たい。そして、自らも成長して、その「何か」を未来へとつなぐ、「つなぎ手」になれたら、と考えました。

施設デザインは、日本の自然、景観、文化など様々な象徴である「富士山」をモチーフにしました。エリア半分は、太古から日本人の暮らしにさえ溶け込んでいる「富士のある風景」に焦点を当てたガーデンとしました。もう一方は、「日本の森」の魅力を極小のエリアで創造することに挑戦してみました。敢えて縦長の細長い森とし、のぞき窓やシャドーボックスなど、人間の目の錯覚を利用しながら、森の魅力が伝わる装置づくりに挑戦してみました。そして、このふたつが一体となって、日本の自然との持続可能な共存について、非常に小さくても何かしらの「気づき」を生み出すことができたら、と切に願っています。

この施設づくりにあたっては、同世代の仲間たちとワークショップでアイデアを出し合い、語り合い、たくさんの刺激を得るとともに、プレガーデン（原寸大モックアップ）を皆と試行錯誤しながら造って確認し、全員が納得した作品を今回博覧会に送り出します。PRスポットではこれらの過程と、その中で出た生の声、粗削りのアイデア集なども展示したいと思います。

